

■東京2歳優駿牝馬(SI)アラカルト(過去全41回の分析)

※第1回(昭和52年)から第24回(平成12年)までは「東京3歳優駿牝馬」の名称で実施

※第25回(平成13年)からは「東京2歳優駿牝馬」の名称で実施

※第25回(平成13年)、第26回(平成14年)は大井ダ1590mで実施

※第34回(平成22年)からは地方競馬全国交流競走として実施

※記録は平成30年12月5日時点

■1番人気馬と2~3番人気馬の好走率に差がある

単勝1番人気馬は19勝、2着6回、3着5回で、3着内率が73.2%、単勝2番人気馬は8勝、2着6回、3着2回で、3着内率が39.0%、単勝3番人気馬は3勝、2着5回、3着7回で、3着内率が36.6%となっている。単勝1番人気馬の成績は非常に優秀だが、単勝2~3番人気馬の好走率はそれほど高くないレースだ。

■3番人気以内の馬が1~2着を占めた例は12回

過去41回のうち30回は、単勝3番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝3番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は12回、単勝3番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は3回ある。

■外国産馬は1勝

外国産馬の優勝例は、現在のところ第29回(平成17年)のダガーズアラベスクのみである。

■一昨年の第40回で他地区所属馬が初勝利

所属別の勝利数を見ると、大井が17勝、川崎が12勝、船橋が11勝、愛知が1勝となっている。第34回(平成22年)からは地方競馬全国交流競走として実施されているが、南関東地区以外の所属馬による優勝例は、現在のところ第40回(平成26年)のピンクドッグウッド(愛知)のみだ。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、4勝の的場文男騎手が単独トップ。3勝の石崎隆之騎手、戸崎圭太騎手、森下博騎手が2位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録も「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の川島正行調教師が単独トップ。2勝の荒井勝弘調教師、寺田新太郎調教師、長沼正義調教師が2位タイとなっている。

■ 「2 枠」と「4 番」が勝利数トップ

枠番別勝利数を見ると、2 枠（10 勝）が単独トップ。5 枠（8 勝）が単独 2 位、4 枠（6 勝）が単独 3 位となっている。また、馬番別勝利数を見ると、4 番（8 勝）が単独トップ。10 番（4 勝）が単独 2 位、2 番、3 番、5 番、6 番、12 番、14 番（各 3 勝）が 3 位タイである。なお、未勝利の馬番は 13 番だけだ。

<伊吹雅也>